

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第32号—

令和元年11月25日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

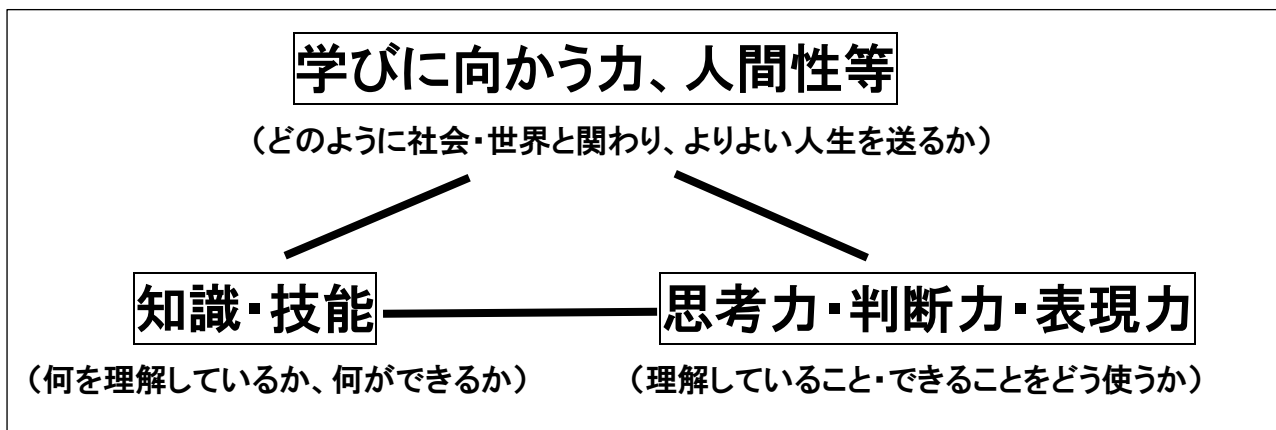
21世紀型教育に向けて～「授業が変わる」「子どもが変わる」「学校が変わる」～

令和2年度から小学校では、学習指導要領が改訂され、新しい教育活動が本格的にスタートします。学習指導要領は、ほぼ10年に1度改訂され、今回は、現在の子供たちが大人になる2030年以降の社会を展望し、改訂が行なわれました。学習指導要領は、令和2年4月から1年ごとに小学校・中学校・高校の順に完全実施され、大学入試制度も40年振りに大きく改革されます。この学習指導要領改訂に伴い、道徳が「特別の教科 道徳」になり、教科書を使って授業が行なわれ、授業の様子は、通知表で御家庭にお伝えすることとなります。また、これまで5・6年生で週1時間行われてきた外国語活動は、新たに「外国語科」として教科化され、5・6年生は週2時間の授業となります。さらに、3・4年生の段階から「外国語活動」として週1時間の学習が始まります。

近年、知識や情報、技術をめぐる変化は、情報化やグローバル化によって人間の予測を超えたスピードで進んでいます。予測できない未来を生きるために求められるのは、まずは感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを主体的に考え出すこと、また、そうした目的を描きながら多様な他者と協力し、新たな価値を生み出していくことが重要です。そのために必要な資質や能力を、社会に開かれた教育課程を通じて育んでいこうという考えが、今回の学習指導要領改訂の背景にあります。

これまでの学習指導要領が各教科の内容項目を中心に定めていたのに対し、新学習指導要領は、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という3つの観点から育てるべき資質を明確に定義づけました。例えば、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、アクティブ・ラーニングの視点を授業に取り入れ、従来の教師が一方向的に話す「一斉講義型」の授業ではなく、子どもたちが自ら考え、対話し、解決の方法を導き出していくような授業展開を学校に求めています。

【育成を目指す資質・能力の3つの柱】



※ 裏もご覧ください。

次年度からの学習指導要領改訂に向けて、津吉小学校では、下記の主題を研究テーマに設定し、その趣旨に沿った校内研究を進めています。

「主体的に考え、伝え合い、深めることのできる子どもの育成」

～算数科における「主体的な姿」を明らかにした授業改善を通して～

各学級担任は、今年度これまで下記のように研究授業を実施し、学校全体で学びを深め、研究テーマの実現に努めてきました。

1年生「のこりはいくつ ちがいはいくつ」



2年生「形をしらべよう」



3年生「かけ算の筆算」



4年生「面積のはかり方と表し方」



5年生「比べ方を考えよう」



6年生「比例をくわしく調べよう」

